

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-265391

(43)Date of publication of application : 24.09.2003

(51)Int.Cl.

A47L 13/20  
A47L 13/254

(21)Application number : 2001-317660

(71)Applicant : UNI CHARM CORP  
DAINIPPON PRINTING CO LTD

(22)Date of filing : 16.10.2001

(72)Inventor : TANAKA YOSHINORI  
HAYASHI MASAYASU  
UENISHI TOSHIHIKO

(30)Priority

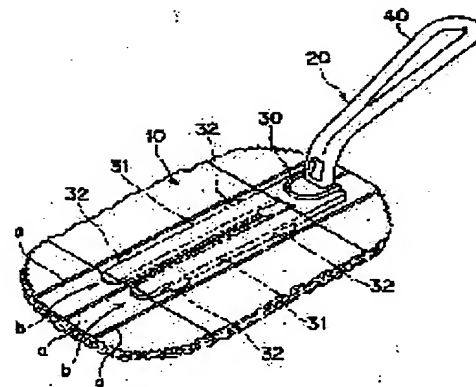
Priority number : 2000328865    Priority date : 27.10.2000    Priority country : JP

(54) HANDY MOP

(57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a handy mop which is less likely to cause damages during cleaning and from which a mop body is less likely to come off during use though the mop body is simply attached and detached.

**SOLUTION:** The handy mop includes the mop body 10 for collecting dust and a handle 20 to which the mop body 10 is to be attached. The mop body 10 is provided with two gaps (b) extending in parallel for attachment of the handle 20 thereto. The handle 20 is provided with an attachment portion 30 and a gripper 40 extending rearwardly upwardly from a root end of the attachment portion 30. The attachment portion 30 is bifurcated at the root end to provide two insert plates 31, which are flat and level, and are to be inserted into the gaps (b) of the mop body 10 for use. It is advantageous that the mop body 10 can be attached and detached with one operation and the mop body 10 is less likely to come off. Further the mop body 10 is fitted to the flat insert plates 31 and is flexible when pressed, whereby the mop body 10 never damages an object to be cleaned.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

05.10.2004

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the  
examiner's decision of rejection or application  
converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of  
rejection]

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2003-265391  
(P2003-265391A)

(43) 公開日 平成15年9月24日 (2003.9.24)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テームト\*(参考)

A 4 7 L 13/20  
13/254

A 4 7 L 13/20  
13/254

B 3 B 0 7 4

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2001-317660 (P2001-317660)

(22) 出願日 平成13年10月16日 (2001. 10. 16)

(31) 優先権主張番号 特願2000-328865 (P2000-328865)

(32) 優先日 平成12年10月27日 (2000. 10. 27)

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県川之江市金生町下分182番地

(71) 出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 田中 嘉則

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7

ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン  
ター内

(74) 代理人 100096600

弁理士 土井 育郎

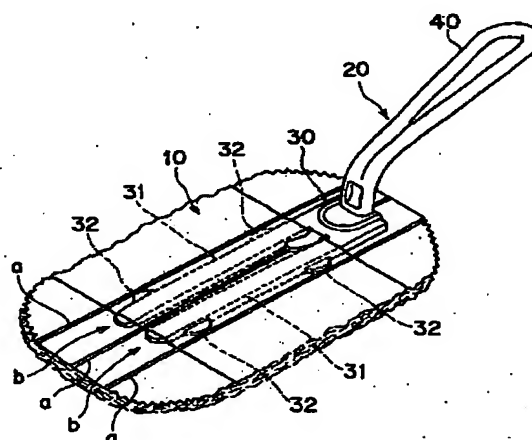
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ハンディモップ

(57) 【要約】

【課題】 清掃中に傷を付けにくく、しかもモップ本体の着脱が簡単でありながらも、使用中は抜けにくいように工夫したハンディモップを提供する。

【解決手段】 ゴミや埃を付着させるためのモップ本体10とそれを取り付けるための把手20とからなるハンディモップであって、モップ本体10は2本の平行な取付け用の隙間bを有しており、把手20は扁平で水平な2本の差込板31を根元から二股状に有する取付け部30とその取付け部30の根元から後上方へ延びる把持部40とで構成されており、モップ本体10の取付け用の隙間bに把手20の取付け部30における差込板31を挿入することで使用状態にする。モップ本体10をワンタッチで着脱することができて、しかも使用中は抜けにくいという利点があり、またモップ本体10は扁平な差込板31に取り付けられ、押した時にしなりがあることから、清掃対象物に傷を付けるようなことがない。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゴミや埃を付着させるためのモップ本体とそれを取り付けるための把手とからなるハンディモップであって、モップ本体は2本の平行な取付け用の隙間を有しており、把手は扁平で水平な2本の差込板を根元から二股状に有する取付け部とその取付け部の根元から後上方へ延びる把持部とで構成されており、モップ本体の取付け用の隙間に把手の取付け部における差込板を挿入することで使用状態にすることを特徴とするハンディモップ。

【請求項2】 差込板の先端に丸みを設けたことを特徴とする請求項1に記載のハンディモップ。

【請求項3】 取付け部の根元から2本の差込板の間に突き出る押さえ板を形成し、その押さえ板の先端を上向きに傾斜するとともに、裏面に引っ掛け部分を設けたことを特徴とする請求項1又は2に記載のハンディモップ。

【請求項4】 差込板の縁に少なくとも一つの凸部を形成したことを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載のハンディモップ。

【請求項5】 モップ本体における挿入用の隙間に、把手の差込板に設けた凸部が嵌まる拡大領域を形成したことを特徴とする請求項4に記載のハンディモップ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、室内や車内などの埃を除去するための清掃作業に用いられるハンディモップに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】一般に、この種のハンディモップとしては、把手にモップ本体を取り付けたものが使用されている。そして、従来は、モップ本体が汚れると洗って繰り返し使うようにするものが殆どであったが、最近では、使い捨てタイプのモップ本体とそれを取り付けるための把手とを組み合わせたものが広く利用されるようになってきている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の技術で述べたハンディモップは、使い捨てタイプのモップ本体とそれを取り付けるための把手とからなるが、使用中にモップ本体が把手から外れないようにするため、しっかりとした把手にモップ本体を差し込んでパネで押さえたり、ゴムの成形品で固定するようにしている。このように、使用中に外れないことを考慮すると脱着が簡単でなくなるという問題があり、またモップ本体を取り付ける把手部の先端が棒状であるため、清掃中に家具等に当たったりすると傷がつくという問題がある。

【0004】本発明は、上記のような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、清掃中に傷を付けにくく、モップ本体の着脱が簡単でありながら

も、使用中は抜けにくいように工夫したハンディモップを提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の発明であるハンディモップは、ゴミや埃を付着させるためのモップ本体とそれを取り付けるための把手とからなるハンディモップであって、モップ本体は2本の平行な取付け用の隙間を有しており、把手は扁平で水平な2本の差込板を根元から二股状に有する取付け部とその取付け部の根元から後上方へ延びる把持部とで構成されており、モップ本体の取付け用の隙間に把手の取付け部における差込板を挿入することで使用状態にすることを特徴としている。

【0006】請求項2に記載の発明であるハンディモップは、請求項1に記載のハンディモップにおいて、差込板の先端に丸みを設けたことを特徴としている。

【0007】請求項3に記載の発明であるハンディモップは、請求項1又は2に記載のハンディモップにおいて、取付け部の根元から2本の差込板の間に突き出る押さえ板を形成し、その押さえ板の先端を上向きに傾斜するとともに、裏面に引っ掛け部分を設けたことを特徴としている。

【0008】請求項4に記載の発明であるハンディモップは、請求項1～3のいずれかに記載のハンディモップにおいて、差込板の縁に少なくとも一つの凸部を形成したことを特徴としている。

【0009】請求項5に記載の発明であるハンディモップは、請求項4に記載のハンディモップにおいて、モップ本体における挿入用の隙間に、把手の差込板に設けた凸部が嵌まる拡大領域を形成したことを特徴としている。

## 【0010】

【発明の実施の形態】図1は本発明に係るハンディモップの一例を示す斜視図であり、同図に示されるハンディモップは、モップ本体10とそれを取り付けるための把手20とで構成されている。

【0011】モップ本体10には、毛羽立った合成樹脂製の不織布を2～3枚重ね合わせ、中央を横切るようにしてライン状に溶着することで束ねられたものが使用されている。そして、そのモップ本体10の上面は、モップサイズの不織布の上に長さの短い不織布が中程に重ねられ、その状態で長さ方向の3本の溶着ラインaにより貼り合わせられており、それら3本の溶着ラインaの間に2本の平行な取付け用の隙間bが形成されている。

【0012】把手20は、図2に示すように、合成樹脂製の取付け部30とその根元に嵌合固定される同じく合成樹脂製の把持部40とで構成されている。このうち取付け部30は、図3にも示すように、扁平で水平な2本の差込板31を根元から二股状に有している。この差込板31は押圧した時に適度なしなりを生じるように長さ

に応じて厚みを決めればよい。一方、把持部40は、図4にも示すように、取付け部30と嵌合した際に取付け部30の根元から後上方に延びる形状になっており、平面的に見た長さは使い勝手の良さを考えると10~20cm程度にするのがよい。なお、これらの取付け部30と把持部40はともにポリプロピレンを用いて作製するのが好ましい。

【0013】そして、取付け部30の差込板31の先端には丸みが設けられている。この先端の丸みは、平面的な形状での丸みのみならず、垂直断面的にも設けておくことが好ましい。この垂直断面的な丸みは、モップ本体10の隙間bへの差込板31の挿入しやすさを考慮すると、下面側を微小な丸みとし上面側を大きな丸みとすることが好ましい。

【0014】さらに、各差込板31にはそれぞれ外縁の2箇所に円弧状の凸部32が形成されている。この凸部32は、挿入時に溶着ラインaに接することで抜け止めの役目を果たすものであり、2本の差込板31の外縁と内縁のいずれかに少なくとも一つ設けてあればよく、いずれ側にいくつ設けるかは、抜け止め効果と挿入しやすさを考慮して適宜設計すればよい。

【0015】また、取付け部30の根元から2本の差込板31の間に突き出る押さえ板33が形成されており、この押さえ板33は先端が上向きに傾斜しているとともに、裏面に引っ掛け部分33aが形成されている。

【0016】取付け部30の根元には、表側をフランジ34で囲まれた半円状の薄肉部分35が設けてあり、その薄肉部分35には切欠36が形成されている。一方、把持部40は把手部分41の先端に上下2枚の板部分42、43からなる嵌合構造を設けてある。そして、把持部40の板部分42、43の間に取付け部30の薄肉部分35が挿入されると、板部分42、43の接続部分44が薄肉部分35の切欠36に合致するとともに、上方の板部分42の下面に設けた溝42aが薄肉部分35の凸部35aに嵌まって固定されるようになっている。

【0017】上記の構成からなるハンディモップは、使用時に際し、取付け部30と把持部40とにより把手20を組み立てるとともに、その把手20にモップ本体10を取り付けて図1に示す状態にする。

【0018】モップ本体10を把手20に取り付けるには、モップ本体10の上面にある取付け用の隙間bに取付け部30の差込板31を挿入する。この場合、図示のモップ本体10は、どちらからでも差し込むことができる。挿入すると、差込板31の凸部32が外側の溶着ラインaに接した状態で挿入され、最後に差込板31の間の押さえ板33が真中の溶着ラインaを乗り越えることで、図5に示す状態で取付けが完了する。取付け状態では、差込板31の凸部32が外側の溶着ラインaに接するとともに、押さえ板33の裏面には引っ掛け部分33aが設けてあるので、簡単に抜けることはない。

【0019】図6は挿入用の隙間に拡大領域を形成したモップ本体を把手に取り付けた状態を示す説明図である。図6(A)は、溶着ラインaに外側に膨らむ丸みを持たせた場合であり、この丸みは差込板31の凸部32に対応させてある。また、図6(B)は溶着ラインaに抜け部分を残した場合であり、この抜け部分も差込板31の凸部32に対応させてある。このように、挿入用の隙間に拡大領域を形成しておくことにより、図6

(A)、(B)に示すように、取付け状態において差込板31の凸部32が溶着ラインaの丸み部分又は抜け部分に嵌まるので、さらに抜けにくくなる。

【0020】以上、本発明を実施の形態について詳細に説明してきたが、本発明によるハンディモップは、上記した実施の形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更が可能であることは言うまでもないことである。

【0021】例えば、モップ本体は、取付け用の2本の隙間が設けてありさえすれば、どのようなタイプであっても構わない。

【0022】また、上記の例では、不使用時においてコンパクトにするため、把手を嵌合タイプの2部材で構成しているが、1部材で構成しても勿論構わない。

【0023】

【発明の効果】請求項1に記載の発明であるハンディモップは、ゴミや埃を付着させるためのモップ本体とそれを取り付けるための把手とからなるハンディモップであって、モップ本体は2本の平行な取付け用の隙間を有しており、把手は偏平で水平な2本の差込板を根元から二股状に有する取付け部とその取付け部の根元から後上方へ延びる把持部とで構成されており、モップ本体の取付け用の隙間に把手の取付け部における差込板を挿入することで使用状態にすることを特徴としているので、モップ本体をワンタッチで着脱することができて、しかも使用中は抜けにくいという利点があり、またモップ本体は偏平な差込板に取り付けられ、押した時にしなりがあることから、清掃対象物に傷を付けるようなことがない。

【0024】請求項2に記載の発明であるハンディモップは、請求項1に記載のハンディモップにおいて、差込板の先端に丸みを設けたことを特徴としているので、上記効果に加えて、モップ本体の隙間に差込板を挿入する際に引っ掛かることなくスムーズに挿入できるという効果を奏する。

【0025】請求項3に記載の発明であるハンディモップは、請求項1又は2に記載のハンディモップにおいて、取付け部の根元から2本の差込板の間に突き出る押さえ板を形成し、その押さえ板の先端を上向きに傾斜するとともに、裏面に引っ掛け部分を設けたことを特徴としているので、上記効果に加えて、モップ本体の隙間に差込板を挿入した際に、差込板の間の押さえ板が真中の溶着ラインを乗り越え、抜け止め状態で押さえるように

作用することから、さらに抜けにくくなるという効果を奏する。

【0026】請求項4に記載の発明であるハンディモップは、請求項1～3のいずれかに記載のハンディモップにおいて、差込板の縁に少なくとも一つの凸部を形成したことを特徴としているので、上記効果に加えて、モップ本体の隙間に差込板を挿入した際に、差込板の凸部が外側の溶着ラインに接した状態で挿入されることから、さらに抜けにくくなるという効果を奏する。

【0027】請求項5に記載の発明であるハンディモップは、請求項4に記載のハンディモップにおいて、モップ本体における挿入用の隙間に、把手の差込板に設けた凸部が嵌まる拡大領域を形成したことを特徴としているので、上記効果に加えて、モップ本体の隙間に差込板を挿入した際に、差込板の凸部が拡大領域に嵌まった状態になるので、さらに抜けにくくなるという効果を奏する。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るハンディモップの一例を示す斜視図である。

【図2】ハンディモップの把手を分解状態で示す斜視図である。

【図3】把手の取付け部を示すもので、(A)は平面図、(B)は(A)のX-X断面図、(C)は背面図である。

\*

\* 【図4】把手の把持部を示すもので、(A)は平面図、(B)は側面図、(C)は背面図である。

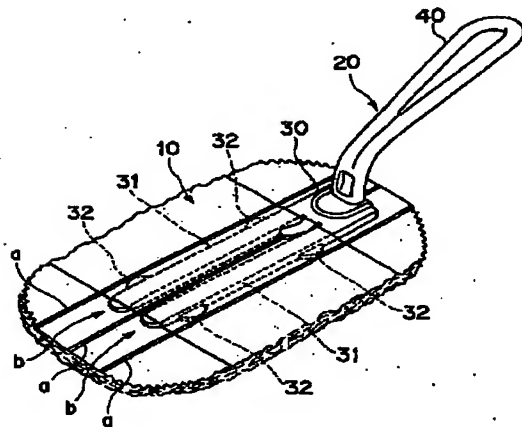
【図5】モップ本体を把手に取り付けた状態を示す斜視図である。

【図6】別のタイプのモップ本体を把手に取り付けた状態を示す説明図である。

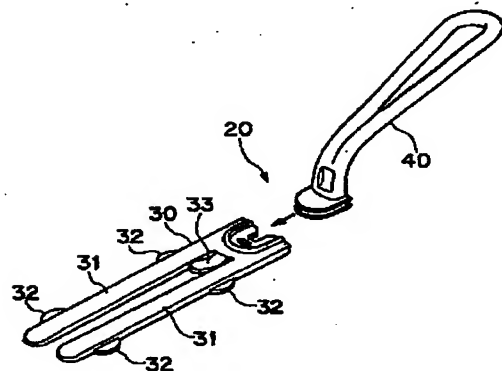
#### 【符号の説明】

- 10 モップ本体
- 20 把手
- 30 取付け部
- 31 差込板
- 32 凸部
- 33 押さえ板
- 33a 引っ掛け部分
- 34 フランジ
- 35 薄肉部分
- 35a 凹部
- 36 切欠
- 40 把持部
- 41 把手部分
- 42, 43 板部分
- 42a 突起
- 44 接続部分
- a 溶着ライン
- b 隙間

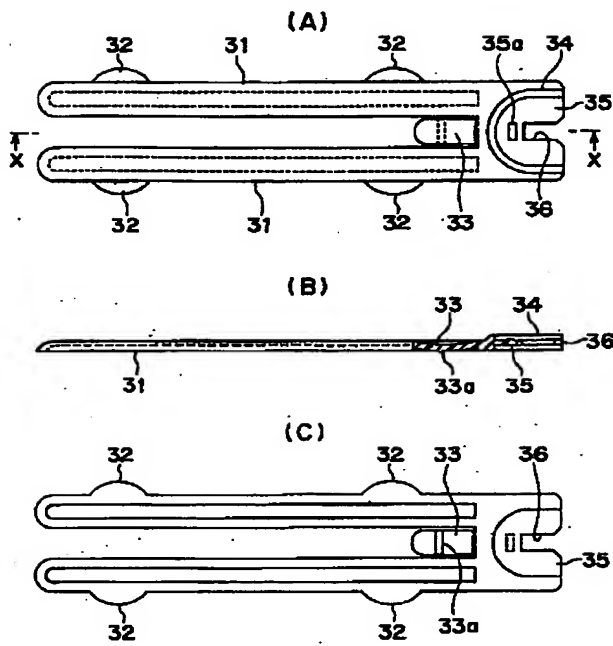
【図1】



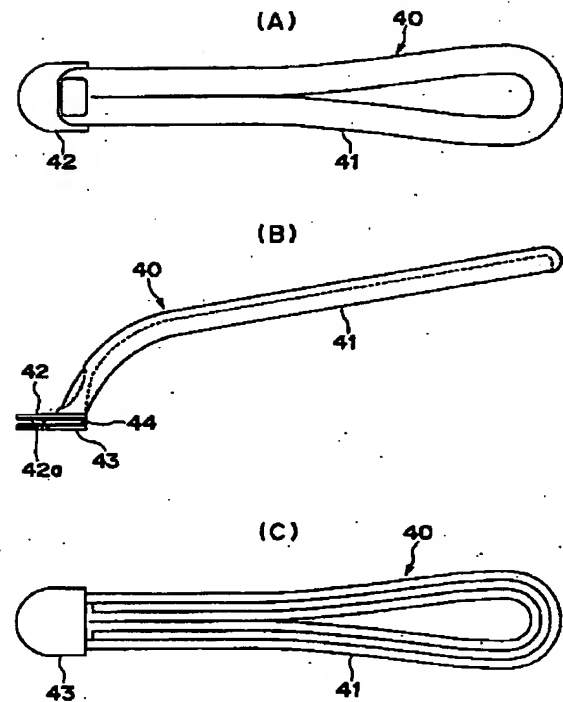
【図2】



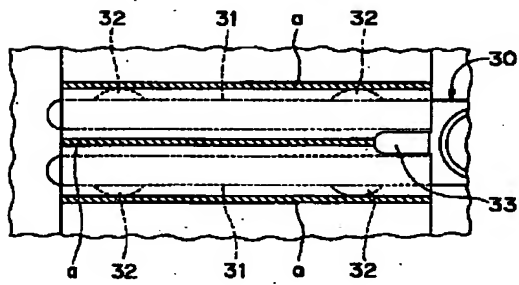
【図3】



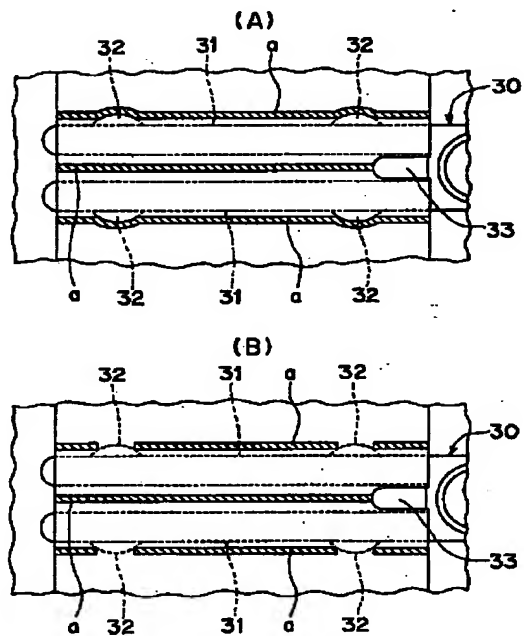
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(72)発明者 林 正保  
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
大日本印刷株式会社内

(72)発明者 上西 利彦  
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
大日本印刷株式会社内  
Fターム(参考) 3B074 AA02 AA08 AB01 EE02